

## リチウムペグマタイト



福岡県福岡市西区のJR筑肥線長垂トンネル内で採取されたリチウムペグマタイト。  
幅約70cm×奥行き約50cm×高さ約35cm  
GSJ R109357

花こう岩ができる最後の段階で、大きな結晶が成長した部分を「ペグマタイト」または「巨晶花こう岩」といいます。ペグマタイトには、最後まで残ったマグマにレアメタルなどの成分が濃集し、鉱床を形成していることもあります。

第1展示室奥のアンモナイト階段を上った先で、第2展示室入口前に展示されている一抱えある標本は、福岡県福岡市西区の筑肥線長垂ちくひせん ながたれトンネル内で採取されたペグマタイトで、リチア雲母りんも（リシア雲母とも）を多く含み、リチウムペグマタイトと呼ばれています。この標本は国鉄（現JR九州）筑肥線の複線化にともなう新トンネル掘削の際、西口から約90mのトンネル内に現れたペグマタイト岩脈から採取されたものです。リチア雲母は鱗雲母りんまたは紅雲母べにとも呼ばれ、標本では淡紫色で粒状の集合体をなしています。六角形の薄板にはがれやすく、はがれた面がキラキラしています。リチア雲母はカリ長石（手前側、淡いオレンジ色）や石英（無色、透明感あり）と共生しています。このほか、緑柱石、コルンブ石等が見られます。

産出地点近くの長垂山から海岸にかけての地域は、古くからリチウムペグマタイトの産地として知られ、1934年には国の天然記念物に指定され、保全がはかられました。しかし、戦時中にほとんど採りつくされたため、このような大型で新鮮な標本はきわめて貴重なものとなっています。

なお、当地域のリチア雲母は、福岡県の「県の鉱物」（日本地質学会2016年発表）に選定されています。

（地質標本館室 下川浩一）